

林政審議会委員 現地視察等の概要

1. 林政審議会委員 現地視察

- (1) 日 時：平成27年11月9日（月）
 (2) 場 所：群馬県 藤岡市、沼田市、渋川市、前橋市
 (3) 参加委員：鮫島正浩会長、尾崎公一委員、葛城奈海委員、古口達也委員、田中
 信行委員、塚本愛子委員、土屋俊幸委員、横山隆一委員
 (4) 概 要：

① 多野東部森林組合（藤岡市）

- ・ 組合員数1,514人、管内民有林12,133ha（組合員所有林7,549ha）
- ・ 平成18年から提案型集約化施業に取り組み、集約化モデル組合に選定されている。
- ・ 現地はスギや広葉樹等からなる約47haの団地で、路路密度95m/ha（間伐25.5ha、集材量1,200m³を予定）
- ・ チェーンソー伐倒→ハーベスタ造材→フォワーダ搬出の作業システムにより間伐。生産性は約8m³/人日。
- ・ 作業日報を作成し、現場ごとの生産性や原価計算等を実施。
- ・ 「緑の雇用」事業を活用するなどして、現場技能者を育成。（この10年間で離職者はいない。）
- ・ 平成25年には、現場技能者の給与を月給制に変更。
- ・ 事業量を急に増やすことは難しく、現場技能者を計画的に育成していくことが重要との事。



② 沼田市立沼田中学校（沼田市）

- ・ 平成26年に竣工した木造平屋立て校舎（群馬県産スギ、カラマツを中心に4,112m³の木材を使用）
- ・ 張弦梁構造や吹き抜け天井を採用した開放感ある校舎であり、木製ロッカー等を作り付け。
- ・ 特注材等を極力避けて一般材を使用。梁にカラマツ集成材、柱にはスギ、土台にカラマツLVLを使用。
- ・ 明確なデータでは無いが、先生の間感として、生徒は落ち着いて学習に取り組んでいるとの印象。



③ 渋川県産材センター（渋川市）

- ・群馬県森林組合連合会が設置した製材施設。（市場機能を持たない原木の集荷、選別、簡易加工施設）
- ・切り捨て間伐から利用間伐へ転換するため、出口対策として全量買い取りを開始。
- ・3mでA～C材を全量定額買取。受け入れた材は選別機により仕分け、A材は柱材用、B材は集成材用、C材は製紙用チップに加工し、提携工場等へ出荷。（平成26年度原木入荷3.5万m³）
- ・A材、B材は協定取引により全量販売、C材は出荷量の1/2を占め、未利用資源の活用が促進されている。



④ 平方木材株式会社（前橋市）

- ・プレカット工場、建築資材販売を経営。
- ・横架材、柱材、下地材、野地床材などの加工機を備え、平成25年にNC加工機を導入。
- ・プレカット加工は、月産150棟ペース。
- ・群馬県産材住宅、ぐんま健康・省エネ住宅の普及にも取り組んでおり、それら協議会等の事務局も務めている。



2. 林政審議会委員 現地意見交換会

(1) 日 時：平成27年11月10日（火）

(2) 場 所：関東森林管理局大会議室

(3) 参加委員：鮫島正浩会長、永田昌三委員、榎本長治委員、尾崎公一委員、葛城奈海委員、古口達也委員、佐藤重芳委員、田中信行委員、塚本愛子委員、土屋俊幸委員、原 薫委員、堀井史恵委員、松浦純生委員、横山隆一委員

(4) 意見発表：外山京太郎氏（川場村村長）、入澤富雄氏（吾妻森林組合業務係長）、橋本 武氏（四万林業協業組合総務課長）、一場章良氏（一場製材(株)代表取締役）

(5) 概 要：

- ① 外山氏：川場村と世田谷区との「縁組協定」による交流、平成28年度に稼働予定の製材工場により森林資源を有効活用し、森林所有者への利益還元を目指すこと等の説明、間伐等への補助事業にかかる要望があった。

- ② 入澤氏：国有林と連携した共同施業団地（取組の概要、事業地拡大等のメリット、作業のタイミング調整や共同販売など今後の課題等）、人材育成（現場班長を中心とした技術の習得、指導者不足などの課題）についての説明、間伐等への補助事業にかかる要望があった。
- ③ 橋本氏：効率的な作業システムの導入や多能工化等による生産性向上と労働災害発生件数の減少、「緑の雇用」事業活用による若年者雇用の進展、経費削減のための機械維持修繕の工夫等について説明があった。
- ④ 一場氏：県内製材工場は依然として乾燥施設の整備が課題であること、柱材専門工場向けに3m 材の出材が増えているが、横架材など多様な製材品を生産するためには4m 材の供給も重要であること、木材の発注が一時期に集中する公共建築物件に対応するためには、製材・プレカット工場における在庫機能の強化等が必要であること等について説明があった。

